2022 年 9 月 7 日

APIR Trend Watch No. 82

DMO の観光誘客の取組とその効果(3)[1]

-マーケティング・マネジメントエリアに着目した分析：奈良県の事例から-

APIR 研究統括兼数量経済分析センター長　稲田　義久
研究員　野村　亮輔

要旨

本稿では奈良県にかかわる観光基礎統計を用いて、県の観光戦略が抱える課題に光をあて、3 つの観光地域づくり法人(以下、DMO)に注目し、その観光誘客効果を分析した。分析を整理し、得られた含意は以下のようにまとめられる。

1. 宿泊施設数をみれば、県全体の宿泊施設数は増加傾向にある。うち、奈良市などを含む A エリアでは増加しているが、吉野町などが含まれる D エリアでは減少傾向で推移している。また、宿泊施設数をタイプ別にみれば、A エリアでは旅館が減少する一方でホテルが増加傾向で推移している。また、D エリアでは旅館、簡易宿所ともに減少している。
2. 宿泊施設の定員数をみれば、A エリアではホテルの定員数の増加が全体の押し上げに寄与しているが、D エリアでは旅館の減少が影響し、全体を押し下げている。旅館の平均稼働率をみれば、A エリア 31.1%に対し、D エリア 11.8%と極端な低水準にとどまっている。これまで宿泊施設不足が課題であったが、この問題は県北部では着実に解消されつつある。一方、県南部では低稼働率と宿泊施設の不足は解消されていない。
3. 外国人宿泊者比率は、WEST NARA エリアや吉野町では着実に上昇しているが、奈良市のシェアは圧倒的に高い。京都府の分析事例と同様に、集中している地域からいかに他地域への周遊を促進させるかが今後の課題となる。すなわち、県南部への宿泊を伴うプログラムの造成が重要となろう。
4. このためにも、各 DMO が行う誘客プロモーション及びコンテンツ開発は重要である。例えば、地域の自然資源を活用した体験プログラムの造成などの、県南部へ外国人観光客のみならず日本人観光客をも周遊させる魅力的な仕組みづくりが一層重要となろう。その際、外国人と日本人とに分けるだけでなく、外国人に対しては国・地域ごとの嗜好に合わせて各地域がもつ強みを訴求することが重要となろう。

[1]本稿の資料作成にあたって古山健大氏(公益社団法人京都府観光連盟 主事)及び LUONG ANH DUNG 氏(APIR インターン)の協力を得た。記して感謝する。

はじめに

コロナ禍による緊急事態に対応するために、奈良県の観光戦略の改訂版である『奈良県観光総合戦略』の概要では、「日帰り観光客の比率が高く、１人あたり観光消費額が低いことから、経済活性化のためには、１人あたり観光消費額が高い、**宿泊を伴う周遊・滞在型観光を促進**することが必要。また、県内全域への周遊につなげるため、交通・道路体系のさらなる整備や、**奈良県産食材を使ったおいしい食の提供などの要素も必要**」とされている(表 1、強調太字(ボールド)は筆者)。

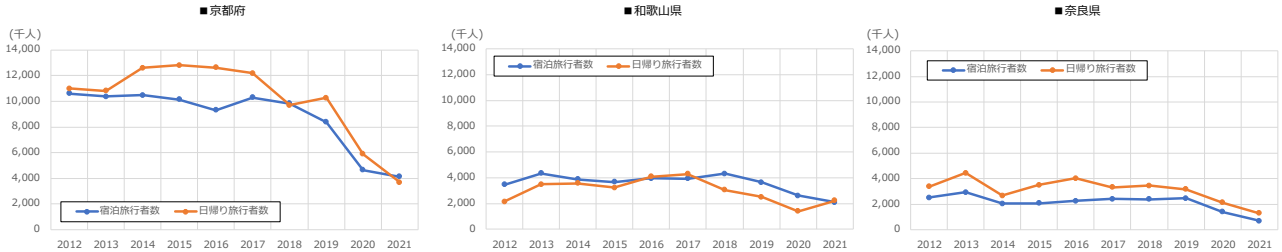
上記の観光総合戦略から本稿では「日帰り観光客の比率」、「宿泊を伴う周遊・滞在型観光の促進」や「観光資源の磨き上げ」をキーワードに分析を行った。はじめに「日帰り観光客の比率」について、観光庁『旅行・観光消費動向調査』からこれまでに分析を行った京都府、和歌山県と奈良県における日帰り旅行者数及び宿泊旅行者数を比較しよう(図 1)。図をみれば、京都府は日帰り旅行者、宿泊旅行者がいずれも多く、和歌山県は宿泊旅行者が日帰り旅行者を総じて上回っている[2]。一方、奈良県は宿泊施設不足の影響もあり、日帰り旅行者が宿泊旅行者を常に上回っており、県の観光戦略においても指摘されている宿泊を伴う周遊・滞在が依然課題であるといえよう。次節では「宿泊を伴う周遊・滞在型観光の促進」に注目して県内の宿泊施設の状況から観光動態について分析を行う。

表 1 奈良県観光総合戦略からみた課題と展望の要約

課題	・**日帰り観光客の比率が高く**、１人あたり観光消費額が低いことから、経済活性化のためには、１人あたり観光消費額が高い、**宿泊を伴う周遊・滞在型観光を促進することが必要**です。 ・そのため、全国最下位クラスとなっている旅館・ホテル客室数を増加させるとともに、奈良市以外の地域においても旅館・ホテルの増加を目指す必要があります。 ・また、県内全域への周遊につなげるため、交通・道路体系のさらなる整備や、奈良県産食材を使ったおいしい食の提供などの要素も必要で、１人あたり観光消費額の増加にもつながります。 ・奈良が誇る歴史文化資源である社寺などの貴重な資源をさらに観光に活かしていくとともに、そのほかの奈良の魅力についても広く知らしめ、新たな観光誘客につなげることが必要です。 ・さらに、新型コロナウイルス感染症対策に示されるような安全・安心な観光や、持続可能な観光への配慮が求められます。
展望	・これらの課題を克服した観光地・奈良となるためには、事業者、県や市町村、観光協会、観光地域づくり法人(DMO)等の観光振興実施主体が、それぞれの立場で積極的かつ主体的に参画し、取組を行うことが必要です。 ・各観光振興実施主体が自ら行うべき役割をたゆまずに行い、観光資源の磨き上げに努め、来ていただいた方々におもてなしの心を持って接することを長きにわたって続けることで、観光地としての魅力を感じてもらい、評価を受け、再び訪れていただけるようになります。

出所：奈良県『奈良県観光総合戦略』より要約を作成

図 1 宿泊旅行者及び日帰り旅行者の比較：京都府、和歌山県、奈良県



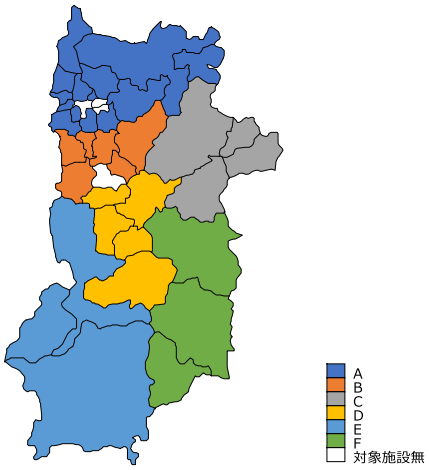
出所：観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成

[2] 詳細な数値は後掲参考図表 1 を参照。

1.　奈良県の観光動態

本節では奈良県が公表している『奈良県宿泊統計調査』を基礎統計とし、県の観光動態を整理、分析する。前述した「宿泊を伴う周遊・滞在型観光の促進」の観点から、県が抱える宿泊施設不足の課題に注目し、県内の宿泊施設数、宿泊施設タイプや収容人数等の基礎データから、図 2 で示しているエリアごとの特徴を明らかにする[3]。なお、エリア別の分析については後述する DMO のマネジメントエリアに関係する市町村(奈良市、斑鳩町、吉野町)を含む A 及び D エリアに限定する。

図 2 分析対象エリア



出所：奈良県『奈良県宿泊統計調査』より筆者作成。

1-1. 『奈良県宿泊統計調査』からみた主要エリア別特徴

【宿泊施設数】

図 3 は県内の宿泊施設数の推移をエリア別に見たものである。施設総数は 2011 年の 553 件から 16 年には 429 件まで減少したが、好調なインバウンドの影響を受け 17 年以降増加傾向に転じ、足下 20 年は 502 件となった。ただ、11 年の水準を依然下回っていることに注意が必要である。ちなみに、20 年における京都府の宿泊施設総数は 4,343 件、和歌山県は 922 件といずれも奈良県を上回っており、他府県と比べて宿泊施設が比較的少なく[4]、宿泊施設の不足感が確認できる。

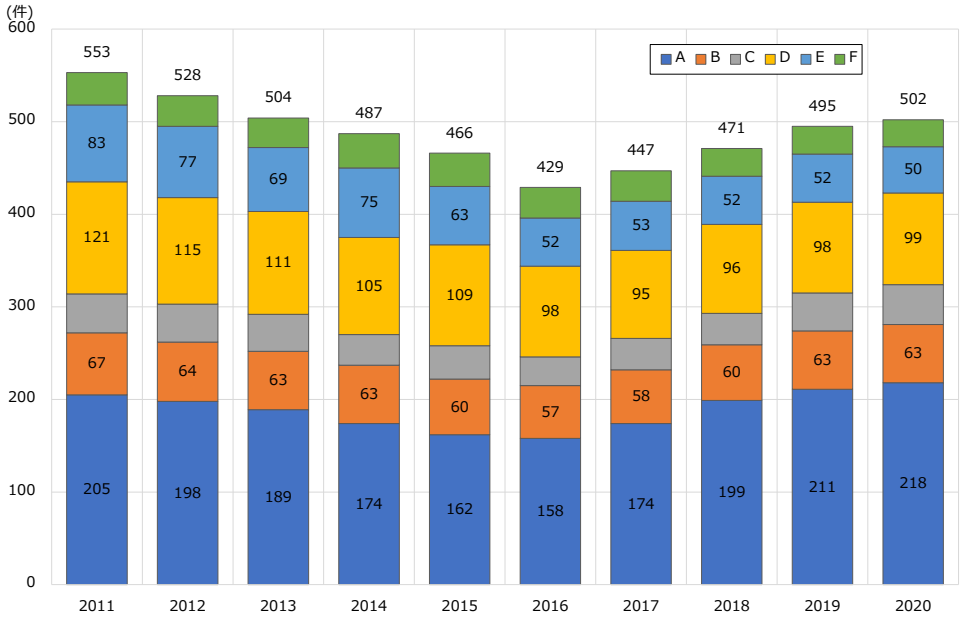
---

[3] 本統計調査におけるエリア区分は以下の通りである。
A：奈良市、生駒市、天理市、大和郡山市、香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、斑鳩町、安堵町、田原本町、広陵町、山添村
B：大和高田市、橿原市、葛城市、桜井市、御所市、明日香村
C：宇陀市、曽爾村、御杖村、東吉野村
D：吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村
E：五條市、野迫川村、十津川村
F：川上村、上北山村、下北山村

[4] 観光庁『宿泊旅行統計調査』によれば、2020 年 1 月時点の全国の宿泊施設数は 6 万 1,259 件で、奈良県は全体の 43 番目に位置している。なお、京都府及び和歌山県の宿泊施設数の詳細については、稲田・古山・野村(2022a)及び(2022b)が詳しい。

エリア別にみれば、奈良市や斑鳩産業がマネジメントエリアとする斑鳩町を含むＡエリアは 2011 年の 205 件から 16 年に 158 件まで減少するも、17 年以降増加し、20 年は 218 件となっている。この背景には後述するように簡易宿所の増加が寄与していると考えられる。また、吉野ビジターズビューローがマネジメントエリアとする吉野町を含むＤエリアをみれば、11 年の 121 件から 17 年に 95 件まで減少し、18 年以降は微増にとどまり 11 年の水準に戻っていない(20 年 99 件)。

図３　県内宿泊施設数の推移



出所：奈良県『奈良県宿泊統計調査』より筆者作成。

次に図 4 はエリア内の宿泊施設数をタイプ別にその推移をみたものである。各エリアの特徴は以下の通りである[5]。

＜Ａエリア＞

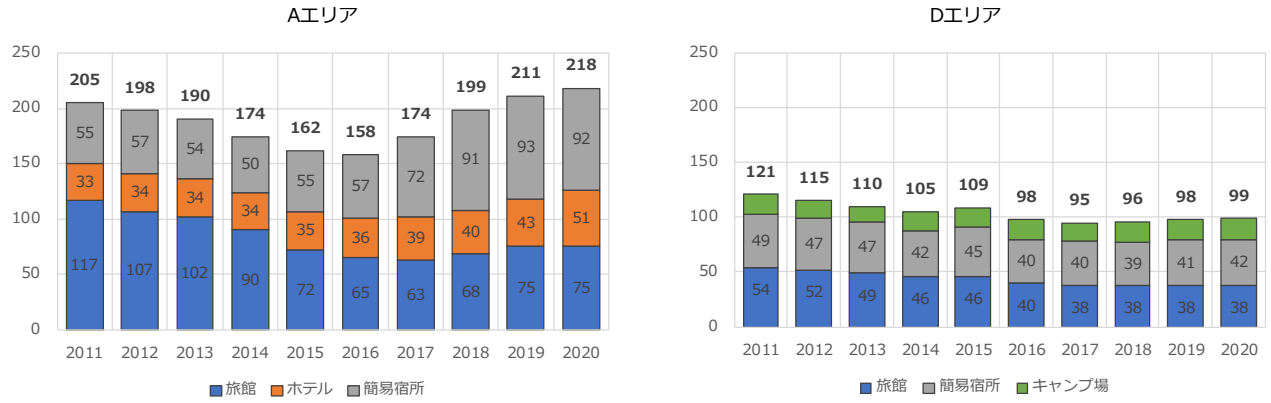
エリア内の宿泊施設数をタイプ別にみれば、旅館は 2011 年の 117 件から減少傾向で推移し、17 年に底打ちし(63 件)、足下 20 年には 75 件となっている。この間、旅館は 42 件の純減である。次にホテルをみれば、11～16 年までは 3 件(33 件→36 件)の微増、17～20 年にかけては 15 件の大幅増加(36 件→51 件)となった。この間、18 件の純増である。簡易宿所をみれば、11 年から 14 年にかけて減少傾向で推移するも、15 年以降増加に転じ、インバウンド需要拡大の影響を受け 20 年には 92 件まで増加している。この間、37 件の純増である。Ａエリアでは、旅館数の減少をホテルと簡易宿所の増加が補っている。

[5] 各エリアの詳細な宿泊施設数については、後掲参考図表 2 を参照。

＜Dエリア＞

エリア内の宿泊施設数をタイプ別にみれば、旅館は 2011 年の 54 件から減少傾向で推移し、足下 20 年には 38 件となっている。この間、16 件の純減となっている。次に簡易宿所をみれば、11 年の 49 件から 14 年にかけて減少傾向で推移し、15 年以降幾分増加したものの、16 年以降は再び減少に転じ、20 年は 42 件となっている。この間、7 件の純減である。D エリアでは、宿泊施設はいずれも減少している。

図４　エリア別宿泊施設数の推移：単位：件



出所：奈良県『奈良県宿泊統計調査』より筆者作成。

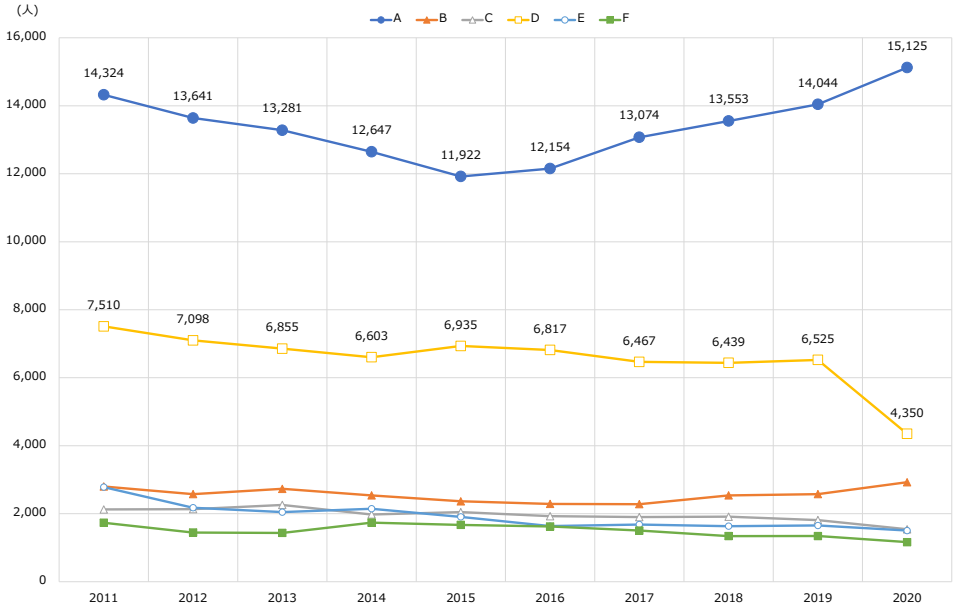
【宿泊施設の定員数】

宿泊受け入れ能力を把握するのに重要なのは、宿泊施設数より定員数の増減である。ここでは各エリアにおける宿泊施設の定員数の推移をみる(図 5)。

はじめに A エリアの定員数をみれば、2011 年(1 万 4,324 人)から減少傾向で推移し、15 年(1 万 1,922 人)には底にうち、以降増加傾向を示している。足下 20 年は 1 万 5,125 人と 11 年の定員数を 800 人程度上回っている。この背景には、ホテル数および定員数の増加が影響している。この間、旅館の定員数が 3,000 人弱の減少に対して、ホテルの定員数は 3,700 人程度増加した。一方、簡易宿所はほとんど変化がない(後掲参考図表参照 3)。

次に D エリアをみれば、2011 年(7,510 人)から微減または横ばい傾向で推移しており、20 年は 4,350 人まで減少している(19 年は 6,525 人)。うち、旅館の定員数が年々減少(11 年 3,349 人→20 年 2,442 人)していることに加え、簡易宿所も低調(11 年 1,276 人→20 年 835 人)であり、20 年はキャンプ場が大幅減少(19 年 2,884 人→1,073 人)している影響が大きい(後掲参考図表参照 3)。

図 5　エリア別宿泊施設定員数の推移：2011-20 年



出所：奈良県『奈良県宿泊統計調査』より筆者作成。

【宿泊施設の定員稼働率】

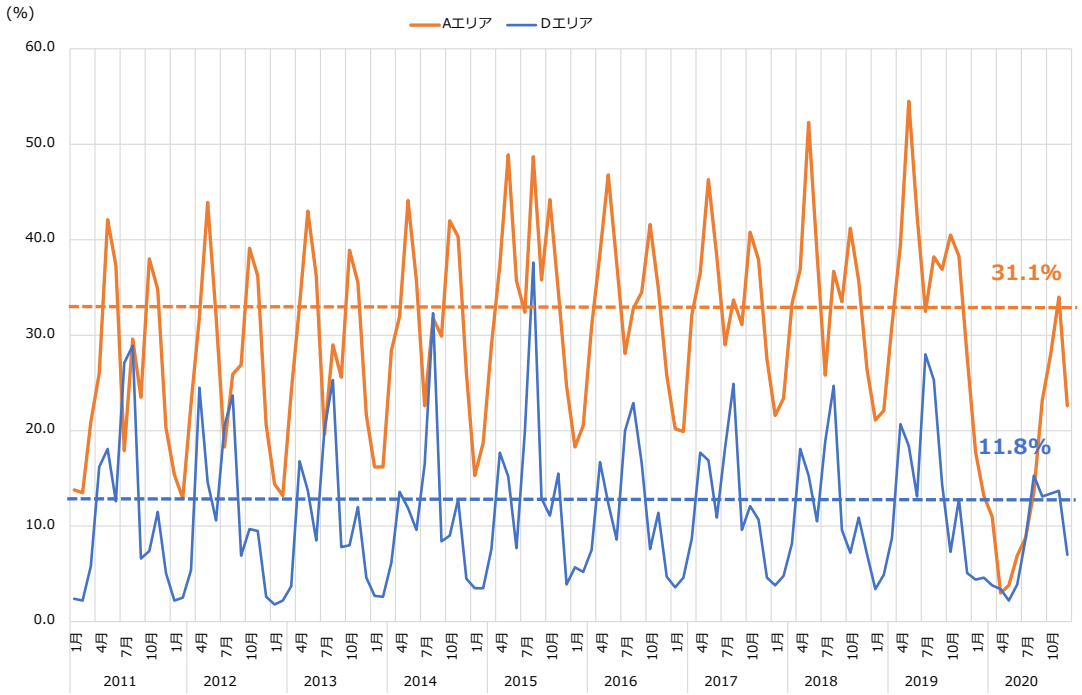
前掲の図 5 では各エリアの宿泊施設の定員数を確認したが、ここでは A と D エリアにおける宿泊施設の定員稼働率[6]の推移を月次ベースでみてみよう[7]。なお、宿泊施設の稼働率は両エリアで比較可能な旅館に注目している。また稼働率の季節性をみるためにも月次ベースで確認している。

図 6 が示すように、A エリアでは主として 5 月、10 月に上昇する一方で、D エリアでは 4 月、8 月に上昇する傾向(季節性)がみられる。

また、エリア別宿泊施設定員稼働率(後掲参考図表 4)に基づく記述統計(後掲参考図表 5)が示すように、2011 年～19 年間の平均旅館稼働率は A エリアでは 31.1%だが、D エリアでは 11.8%と低い。次に両エリアの稼働率の最大値と最小値をみれば、A エリアでは 54.5%、12.9%、最大値と最小値の幅は 41.6%ポイントあるのに対し、D エリアでは 37.6%、1.8%、最大値と最小値の幅は 35.8%ポイントである。A エリアと比べて D エリアでは稼働率の最小値が 2%程度と極端に低い時期がある。吉野町を含む D エリアでは、桜の開花時期や夏のレジャーシーズンに観光客が集中している一方で、閑散期である時期には観光客がほとんど訪問していないこともあり、季節の平準化が課題であると言えよう。

[6] 本統計調査における定員稼働率とは、回答のあった宿泊施設の月別の「延べ宿泊者数」を「定員数に月中営業日数を乗じた数値」で除して求めている。
[7] 各エリアの定員稼働率の詳細については、後掲参考図表 4 を参照。

図 6　エリア別宿泊タイプ別稼働率の推移



出所：奈良県『奈良県宿泊統計調査』より筆者作成。

2.　奈良県主要 DMO のエリア別特徴と誘客効果分析

2-1. 奈良県内 DMO エリアの地理的分布

奈良県観光総合戦略では、「宿泊を伴う周遊・滞在型観光の促進」が重要視されているとともに、「観光資源の磨き上げ」については DMO の役割が重視されている。まず、奈良県に所在する DMO の分布状況を確認しよう。

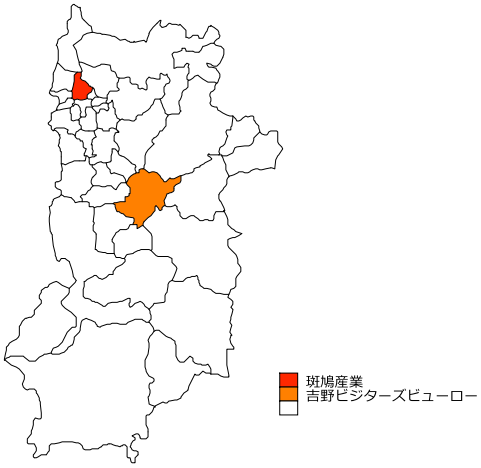
図 7 及び表 2 が示すように、奈良県内には 2 つの地域 DMO(斑鳩産業と吉野ビジターズビューロー)と 1 つの地域連携 DMO(奈良県ビジターズビューロー)が存在している。

斑鳩産業は、民間会社を経営しつつも、DMO としても活動しているという特徴を有している。斑鳩町をマネジメントエリアとしているが、2021 年に近隣自治体である大和郡山市・平群町・三郷町・安堵町・王寺町と連携して「WEST NARA 広域観光推進協議会」を設立し、観光誘客に取り組んでいる。

吉野ビジターズビューローは、吉野町をマネジメントエリアとし、町内の各観光協会、商工会、地元金融機関、農林漁業者等、幅広い分野の関係者と連携し観光誘客策を進めている。

また奈良県ビジターズビューローは、奈良市内に位置し、県全域をマネジメントエリアとしている。

図 7　DMO の分布状況



注：上記 DMO 以外に県全域をマネジメントする地域連携 DMO の「奈良県ビジターズビューロー」がある。
出所：観光庁 HP「観光地域づくり法人一覧」より筆者作成。

表 2　奈良県 DMO の登録状況及びマネジメント対象の市町村

登録区分	申請区分	名称	マーケティング・マネジメント対象とする区域(自治体単位)
地域	登録	斑鳩産業(株)	斑鳩町
		(一社)吉野ビジターズビューロー	吉野町
地域連携		(一財)奈良県ビジターズビューロー	奈良県全域

注：ここでの件数は 2022 年 5月30日現在のもの。
出所：観光庁 HP「観光地域づくり法人一覧」より筆者作成

2-2. 奈良県主要 DMO の設立と活動状況

次に前項で示した DMO の活動状況をみていこう。

表 3 は斑鳩産業の設立経緯と活動状況を示している。斑鳩産業は 2014 年 1 月に法人が設立され、19 年 1 月に地域 DMO(候補法人)として登録された。同年 2 月には観光拠点「奈良斑鳩ツーリズム Waikaru」を開設し、7 月に一棟貸の宿である「いかるが日和」のオープンに取り組んだ。20 年 1 月に改めて地域 DMO として登録され、前述のように 21 年には「WEST NARA 広域観光推進協議会」を設立するなど精力的に観光振興に取り組んでいる。

情報発信としては、ホームページの多言語化やプロモーション動画作成などを行っている。受入環境の整備としては前述した「奈良斑鳩ツーリズム Waikaru」において英語対応が可能なスタッフの雇用やホームページを改良し予約システムの多言語化を行った。また、観光資源の磨き上げにおいては、体験コンテンツ造成、二次交通整備(周遊タクシー・バギー・レンタサイクル)等を行っている[8]。

[8] 「WEST NARA 1DAY PASS」を用いて地域の寺を周遊するコンテンツ開発も行われている。詳細はアジア太平洋研究所(2022)を参照。

表 3　斑鳩産業の設立経緯と活動状況

	斑鳩産業株式会社 まちづくり事業部	法隆寺	斑鳩町
	インバウンド客に対するイノベーション 情報発信 ・2017年 パンフレット作成、展示会、商談会に参加、HP 多言語化、プロモーション動画作成 ・19年 HP 改良（多言語化）、SNS プロモーション インターネット広告 ・20 年 WESTNARA 広域観光推進協議会の共通デザインポスターを作成 ・法隆寺・姫路城の世界遺産登録30 年に向け、姫路市との共同プロモーションに向けた協議を開始 受入環境の整備 ・19年～ Waikaru 英語対応スタッフ雇用、ポケトーク完備、HP 改良（多言語化）予約システム化、キャッシュレス導入セミナー、ガイド育成セミナー ○法隆寺での飲食店などにおいてテラス席の設置などのアドバイスを実施 観光資源の磨き上げ ・17年 体験コンテンツ造成、二次交通整備（周遊タクシー・バギー・レンタサイクル） ・19年 二次交通整備（トゥクトゥク） ・21 年3 月 新たな二次交通の整備として、折り畳み式電動50 ccスクーターを稼働予定	1993年　日本最初の世界文化遺産登録	2009年　斑鳩町観光協会設立
2012			
2013			
2014	1月　法人設立	周辺地域が奈良県初となる歴史的風致維持向上計画に基づいた、街歩き観光による地域活性化を官民共同で推進する地域として指定された	
2015			
2016			
2017			3月　斑鳩町観光計画産策定(17年～26年) 聖徳太子の息吹を感じる演出づくり まちあるきを楽しむ斑鳩の里づくり 魅力発信とリピーターづくり
2018			
2019	**1月　地域DMO(候補法人)として登録** 2月　観光拠点「奈良斑鳩ツーリズムWaikaru」オープン 7月　　一棟貸の宿いかるが日和(民泊)オープン		第５次斑鳩町総合計画審議会が開始
2020	**1月　地域DMOとして改めて登録**		
2021	4月　**WEST NARA広域観光推進協議会**　設立	聖徳太子1400年御遠忌	

出所：観光庁 HP「観光地域づくり法人一覧」より筆者作成

表 4 は吉野ビジターズビューローの活動状況を整理したものである。2013 年 2 月に法人が設立、19 年 3 月に地域 DMO(候補法人)として登録され、21 年 11 月に改めて地域 DMO として登録された。情報発信としては EC サイトの開設、自社商品ブランドの開発や行政と連携したプロモーション活動を行っている。受入環境の整備では、吉野山地内に無料の Wi-Fi スポットを設置し、観光資源の磨き上げとしては旅行業(第 2 種)を取得し、多様なツアーの企画を行っている。なお、吉野町が 16 年に行った「吉野町観光マーケティング調査(平成 28 年度)」を基に DMO は後述するターゲット層を想定している。

表 4　吉野ビジターズビューローの設立経緯と活動状況

	吉野ビジターズビューロー	吉野山	吉野町
		2004年　吉野山含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録	
2012	**インバウンド客に対するイノベーション** 情報発信 ・2019年 多言語対応の観光ＷＥＢマガジンを開設 ・20年 ＥＣサイト開設（物販・ふるさと納税） 自社商品ブランド開発 ・行政と連携した情報発信・プロモーション 受入環境の整備 ・19年～ 吉野駅前に観光案内所を開設 20 年から手荷物預かりを実施 ・18年 吉野山地内に無料Wi-Fiスポットを11 か所整備 ・20年～ 吉野町と連携し感染対策ガイドラインを策定。 21 年4 月には抗原検査キット付きツアーを企画 観光資源の磨き上げ ・18年 旅行業(第2種)を取得し、多様なツアーを企画		
2013	2月　設立		
2014			「消滅可能性都市」に入る
2015			
2016			国内外の来訪者等を対象に大規模なマーケティング調査を実施
2017			
2018			吉野町観光振興計画の策定
2019	**3月　地域DMO(候補法人)として登録**	吉野駅前に観光案内所を開設	7月　吉野山地区まちづくり基本構想の策定
2020			
2021	**11月　地域DMOとして改めて登録**		

出所：観光庁 HP「観光地域づくり法人一覧」より筆者作成

表 5 は県域 DMO である奈良県ビジターズビューローの活動状況を整理したものである。2009 年に設立され、16 年 4 月に地域連携 DMO(候補法人)として登録され、18 年 3 月に改めて地域連携 DMO として登録された。情報発信としては、外国人誘客のためのプロモーション活動を奈良県と連携して行っている。受入環境整備としては、橿原市の観光案内所である「かしはらナビプラザ」の運営を受託し、国内外の観光客へ情報発信を行っている。また、観光資源の磨き上げとして、外国人旅行者向けの体験プログラム、十津川村の地域資源を活かしたツアーや体験プログラムの造成等を行っている。

表 5　奈良ビジターズビューローの設立経緯と活動状況

	一般財団法人 奈良県ビジターズビューロー	奈良市	奈良県
	2009年　設立	2010年　平城遷都1300年事業	
2012	**インバウンド客に対するイノベーション** 情報発信 ・2017年 奈良県と連携した外国人誘客のためのプロモーション ・17～20年 海外メディア、旅行会社等を対象としたファムトリップの実施 ・16～20年 奈良県観光公式サイト「あをによしなら旅ネット」の管理運営 受入環境の整備 ・18～19年 文化財の多言語解説アプリ、多言語紹介映像等の整備 ・～20年 東大寺門前広場内及び境内において観光インフォメーションセンターの管理運営 ・20年 橿原市の観光案内所である「かしはらナビプラザ」の運営を受託 観光資源の磨き上げ ・15～20年 うまし奈良めぐり実行委員会の運営 ・19年 外国人旅行者に選好される体験プログラムの造成等 十津川村において自然を活かしたプログラムの造成 ・19～20年 十津川村において地域資源を活かしたツアー造成等の講習会を実施 ・20年 インバウンドの地方誘客促進のための専門家派遣事業		
2013			
2014		8月　斑鳩町との連携誘客宣言を発表	
2015			
2016	**4月　地域連携DMO(候補法人)として登録**		
2017			
2018	**3月　地域連携DMOとして改めて登録**	7月　市旅館業法施行条例の改正 →市への宿泊者数などの定期報告が義務化	フランスで開催の「ジャポニズム2018」におけるブース出展
2019			9月　奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン(第1期計画)を発表
2020		9月　田原本町、吉野町、明日香村の4市町村が観光分野において連携	
2021			7月　奈良県観光総合戦略の策定

出所：観光庁 HP「観光地域づくり法人一覧」より筆者作成

各 DMO は誘客ターゲット層を国内客とインバウンド客に分けてそれぞれ設定しており、それらをまとめたのが表 6 である。

斑鳩産業は国内客について、首都圏の 50～70 代または 3 世代(親・子・孫)グループの宿泊客や、近畿・中部圏の日帰り客をターゲットとしている。また、インバウンド客については欧米豪をターゲットとしている。

吉野ビジターズビューローは国内客について、地域の歴史遺産や自然資源を活かし、個人旅行者(都市部在住の女性)、自然志向型の家族世帯や定年退職後の夫婦世帯などをターゲットとしている。また、インバウンド客については、日本文化に理解があり知的好奇心を持つ外国人やロングトレイルなどの山歩きで自然景観を楽しむ外国人をターゲットとしている。

奈良県ビジターズビューローは国内客について、奈良好きの個人旅行者や首都圏を中心とした富裕層の個人旅行者をターゲットとしている。また、インバウンドについては富裕層の欧米豪を中心とした個人旅行者をターゲットとしている。

以上をみれば、各 DMO とも欧米豪を中心としたインバウンド客の誘客に取り組むとともに、国内旅行者をもターゲットとしている特徴がある。そこで次項では、各 DMO に関係する市町村における日本人及び外国人宿泊者の動向を観光庁の『宿泊旅行統計調査』の個票データから確認する。

表 6　各 DMO のターゲット層

斑鳩産業株式会社 まちづくり事業部	吉野ビジターズビューロー	一般財団法人 奈良県ビジターズビューロー
ターゲット層		
(国内)首都圏の50～70代または、3世代グループの宿泊客 京都市、奈良市とは異なり落ち着いた雰囲気で歴史文化に味わっていただく。県南部の十津川温泉などにも誘客する。	(国内) 個人旅行型SBNR層(時に都市部の女性) 自然志向の家族世帯 定年退職後の夫婦世帯	首都圏を中心とした個人旅行者(特に富裕層) 06 年から毎年JR 東海によって行われている首都圏での観光キャンペーンがにより、奈良への認知度・関心が比較的高い。また、首都圏からの観光は宿 泊を伴ったものになるケースが多いことから、比較的消費単価が高くなる。
(国内)近畿・中部圏の日帰り客 自家用車での移動に適している地域。 Go Toキャンペーンを活用したプランを造成する。	日本文化に理解があり一定の教養水準と知的好奇心を持つ外国人層(特に欧米豪) 京都など歴史観光地への訪問経験があり、より深く日本人の精神性・信仰観を学びたい「本物志向」の外国人層と、山伏信仰の起源である史跡群は親和性が高い。	国内外の奈良好きの個人旅行者 現時点ですでに奈良に関心を持っている層に対して、まだ知られていない新たな魅力を発信することで、更なるリピーター化や県内の周遊観光促進に取り組む。
(海外)欧米豪 大阪・京都・関西空港からの優れたアクセスを活かし、法隆寺エリアの宿を、各方面にむかう拠点とすることができる。	日本の自然景観に憧れがありロングトレイルなどの山歩きを好む外国人層 ・町が有する自然景観は、ロングトレイルや山歩きを愛好する外国人層の通年でのリピーター化を狙うことが可能である。また、アクティブな若年層の比重が高いことからＳＮＳでの拡散力を期待できる。	欧米豪を中心とした個人旅行者(特に富裕層) 日本との地理的関係から旅行期間が長くなるので、それに伴いトータルの消費額も多い。また、富裕層は知的好奇心が高く、文化・歴史的背景を強みとする奈良県と相性が良い。

出所：観光庁 HP「観光地域づくり法人一覧」より筆者作成

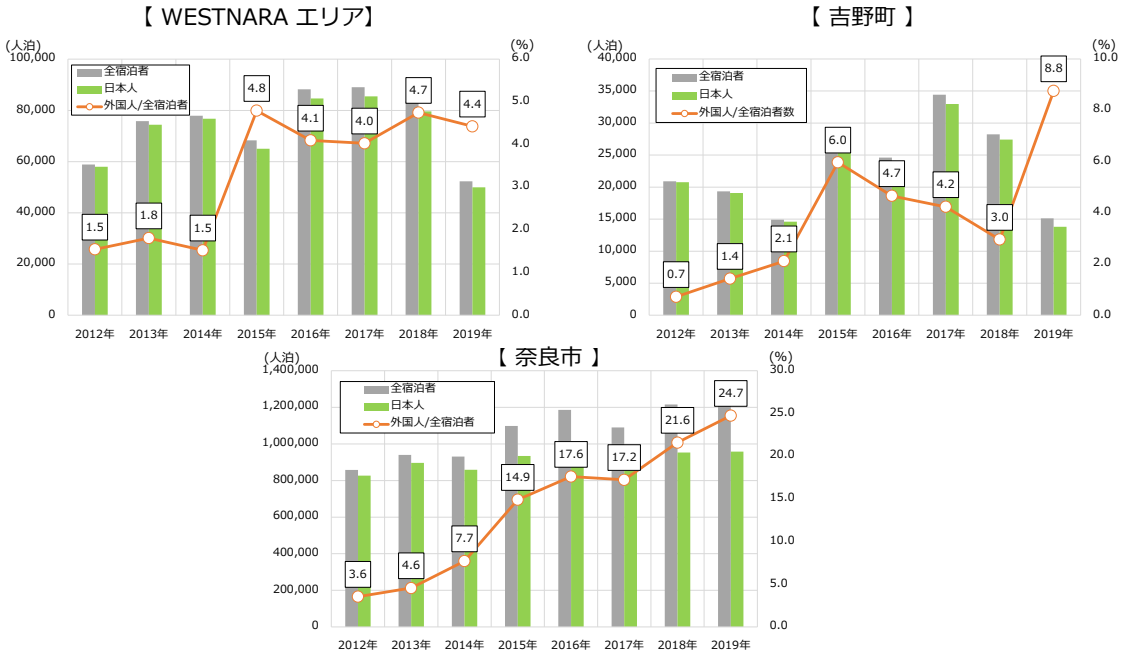
2-3. 『宿泊旅行統計調査』個票データ[9]からみた主要 DMO のエリア別特徴

はじめに斑鳩産業が設立した「WEST NARA 広域観光推進協議会」の構成市町村のエリア(以下、WEST NARA エリア)[10]をみれば、全宿泊者数は 2012 年から 14 年にかけて増加傾向を示し、15 年には一旦減少した。16 年は増加したものの、以降は横ばいで推移し、19 年は再び減少している。また日本人宿泊者も同様の傾向がみられる。一方、外国人宿泊者比率をみれば、12 年の 1.5%から 15 年に 4.8%まで上昇し、以降 4%程度で推移している。

次に吉野ビジターズビューローがマネジメントエリアとする吉野町をみれば、全宿泊者数は 2012 年から 14 年にかけて減少傾向で推移するが、15 年以降増加に転じたのち、16 年は再び減少した。その後、17 年に一旦増加するも、以降は減少傾向が続いている。一方、外国人宿泊者比率をみれば、12 年の 0.7%から上昇傾向を示し、15 年には 6.0%まで上昇した。その後 16 年以降、低下傾向を示していたが、19 年には 8.8%まで上昇している。

最後に奈良市における宿泊者の動向を確認する。全宿泊者数をみれば、2012 年以降、16 年まで増加傾向で推移し、17 年に一旦減少するも、18 年以降再び増加に転じている。次に日本人宿泊者数をみれば、12 年以降、微増ないし横ばい傾向で推移している一方で、外国人宿泊者比率は 12 年の 3.6%から上昇傾向で推移し、19 年に 24.7%まで上昇している。このように日本人宿泊者が横ばいで推移している中、外国人宿泊者が全宿泊者数を押し上げている。

図 8　各地域における宿泊者数と外国人宿泊者比率の推移



出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

---

[9] 本分析は国土交通省近畿運輸局との共同研究の一成果である。なお、本分析で示された見解は執筆者たちに帰属する。

[10] ここでの WEST NARA エリアとは 2-1.で示した、大和郡山市、斑鳩町、平群町、三郷町、安堵町、王寺町の 1 市 5 町を指す。

【国籍別外国人宿泊者のシェア】

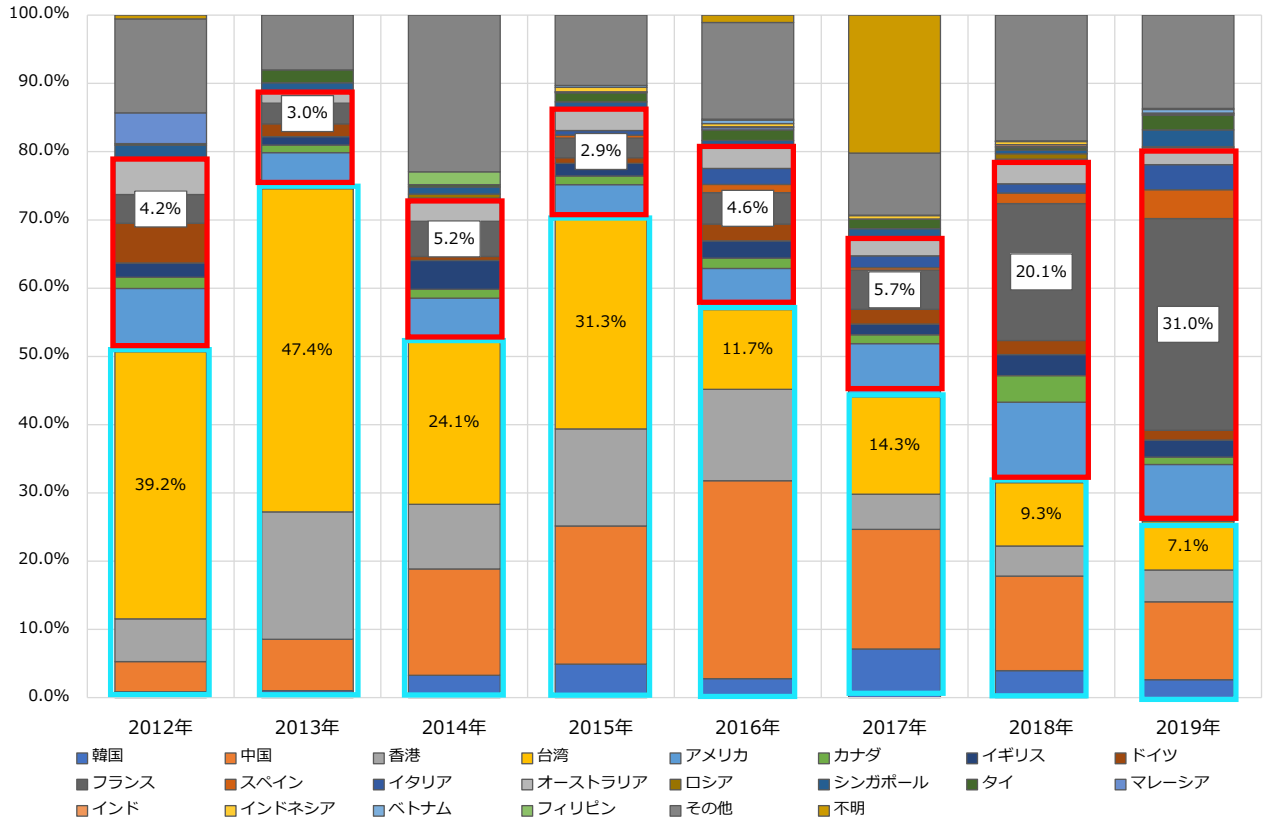
図 8 では、全宿泊者数と日本人宿泊者数及び全宿泊者数に占める外国人宿泊者比率を地域別に見たが、ここでは外国人宿泊者に限定し、国籍別の特徴を見てみよう。

<WEST NARA エリア>

図 9 をみると、東アジアのシェア(青枠)が 2012 年から 15 年にかけて上昇したが(12 年：50.7%→15 年：70.7%)、16 年以降低下傾向で推移している(16 年：56.9%→19 年：25.8%)。うち、台湾のシェアが大幅低下している(12 年：39.2%→19 年：7.1%)。

一方、欧米豪のシェア(赤枠)をみれば、2017 年以降上昇しており(17 年：23.3%→19 年：54.8%)、うち、フランスのシェア(白抜き)が 19 年には全体の 3 割程度を占めている(17 年：5.7%、18 年：20.1%、19 年：31.0%)[11]。

図 9　WEST NARA エリアにおける外国人宿泊者の国籍別シェアの推移



出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

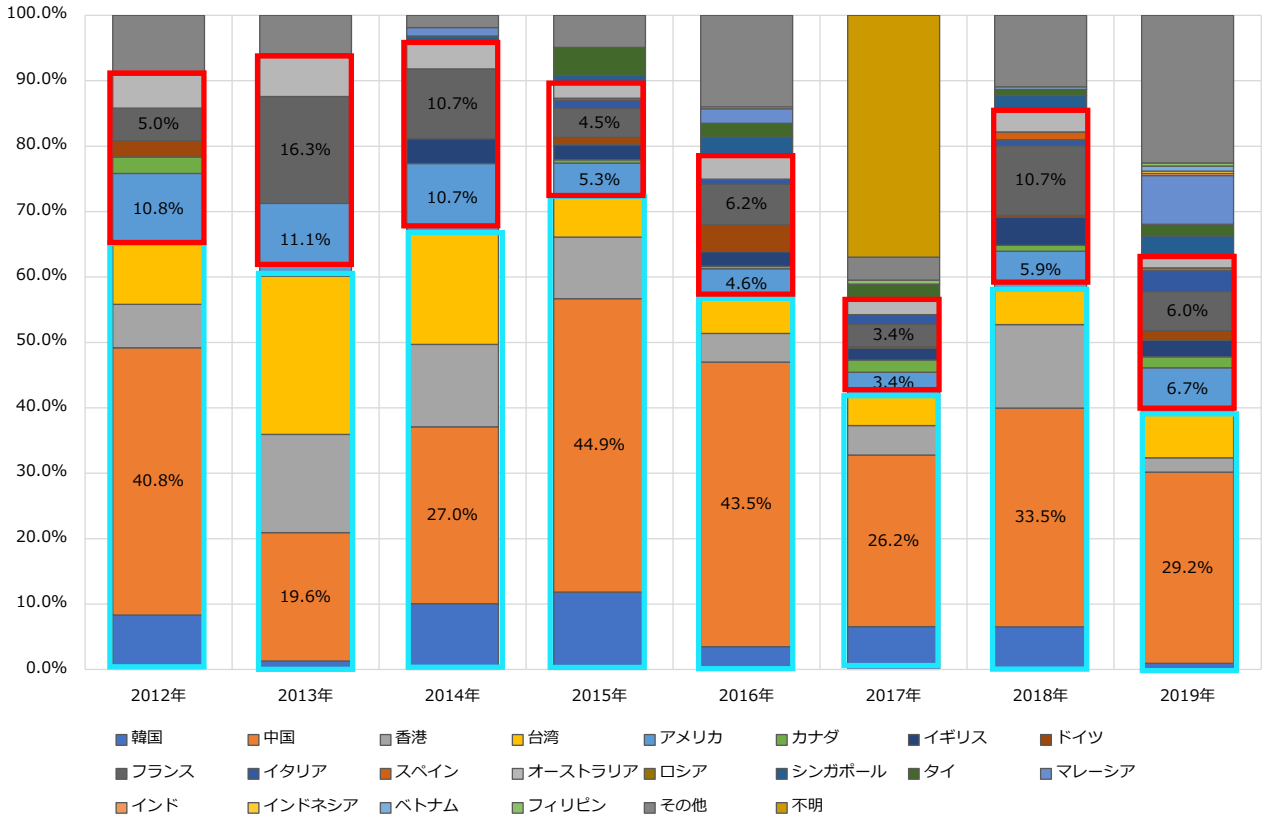
[11] フランスからの宿泊者比率が高いのは、平群町にある信貴山の宿坊の寄与と考えられる。2018 年に急増した要因としては、奈良県が同年に行った「ジャポニスム 2018」へのプロモーションの影響がある。

＜吉野町＞

図 10 をみると、吉野町では東アジア地域のシェアが総じて高いものの、2015 年以降シェアは低下傾向を示している(15 年：56.7%→19 年：39.4)。中でも、中国のシェアが高く、約 2～4 割程度を占めている(12 年：40.8%→19 年：29.2%)。

欧米豪のシェアをみれば、2012 年から 13 年にかけてシェアが上昇し(12 年：25.8%→13 年：34.0%)、14 年以降は 2 割程度のシェアで推移している(14 年：28.9%→19 年：23.9%)。うち、アメリカやフランスのシェアが一定程度占めている特徴がみられる。

図 10　吉野町における外国人宿泊者の国籍別シェアの推移



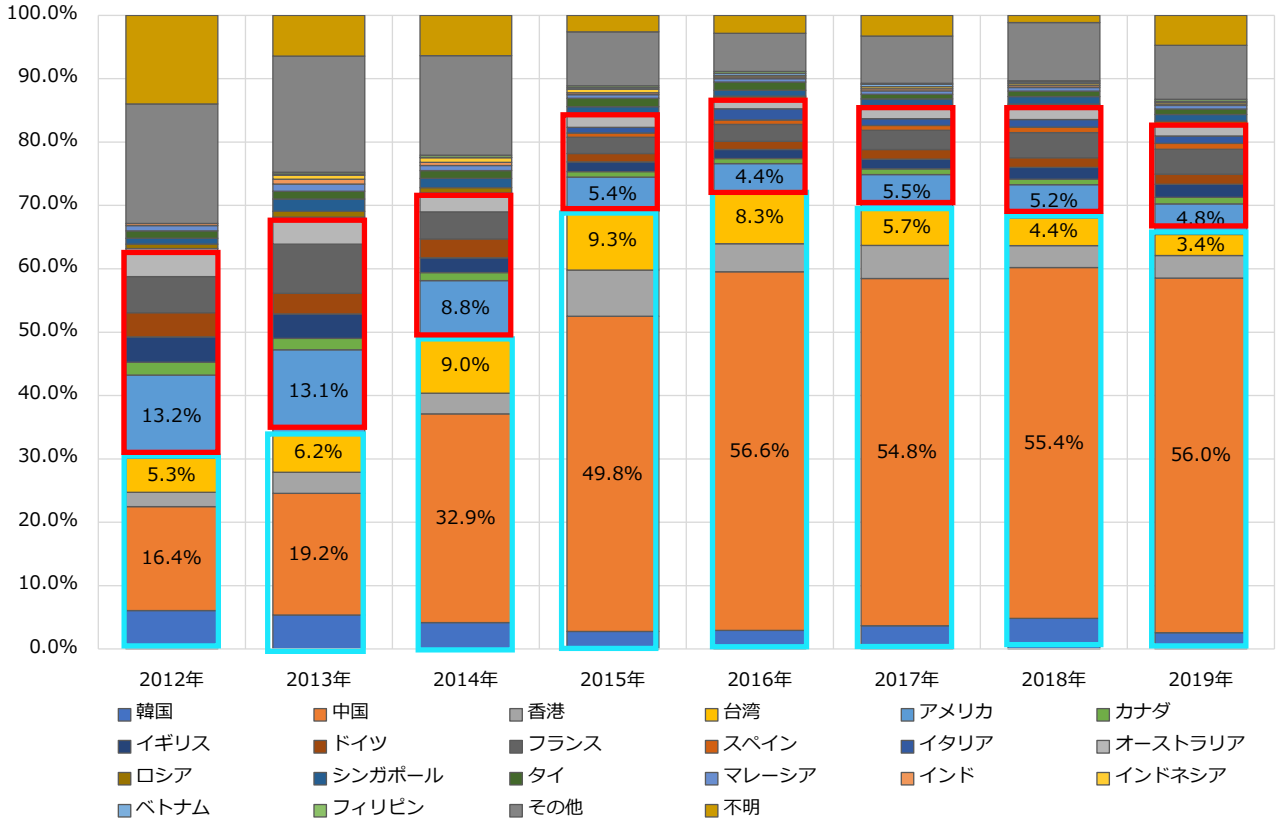
出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

<奈良市>

図 11 をみると、奈良市では 2012 年以降東アジアのシェアが年々上昇している(12 年：30.1%→19 年：65.4%)。うち、中国のシェアをみれば、爆買いの影響もあり 14 年(32.9%)から 15 年(49.8%)にかけて、16.8%ポイント上昇している。その後も上昇傾向が続き 19 年は 56.0%と全体の 5 割強を占めている。

一方、欧米豪のシェアをみれば、2012 年から 16 年にかけて低下し(12 年：33.1%→16 年：14.7%)、足下 19 年は 17.5%と幾分上昇しているものの、東アジアと比べれば依然低い。

図 11　奈良市における外国人宿泊者の国籍別シェアの推移



出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

3. 分析の整理と含意

これまで基礎統計を用いて、1.では県内の宿泊施設数、定員数及び稼働率をみることによって、次に 2.では各 DMO が関係する市町村の延べ宿泊者数及び国籍別外国人宿泊者シェアの動態を分析することにより、奈良県の観光戦略が抱える課題に光をあてた。これらの分析を整理し、得られた含意は以下のようにまとめられる。

1. 宿泊施設数をみれば、県全体の宿泊施設数は増加傾向にある。うち、奈良市などを含む A エリアでは増加しているが、吉野町などが含まれる D エリアでは減少傾向で推移している。また、宿泊施設数をタイプ別にみれば、A エリアでは旅館が減少する一方でホテルが増加傾向で推移している。また、D エリアでは旅館、簡易宿所ともに減少している。
2. 宿泊施設の定員数をみれば、A エリアではホテルの定員数の増加が全体の押し上げに寄与しているが、D エリアでは旅館の減少が影響し、全体を押し下げている。旅館の平均稼働率をみれば、A エリア 31.1%に対し、D エリア 11.8%と極端な低水準にとどまっている。これまで宿泊施設不足が課題であったが、この問題は県北部では着実に解消されつつある。一方、県南部では低稼働率と宿泊施設の不足は解消されていない。
3. 宿泊者数や外国人宿泊者比率をみれば、WEST NARA エリアでは日本人宿泊者数は微増または横ばいで推移している一方、外国人宿泊者比率は 2012 年以降上昇し、4%程度で推移している。吉野町では、全宿泊者数が概ね減少傾向で推移している。一方、外国人宿泊者比率は 12 年から 15 年にかけて上昇し、足下 19 年は 8.8%まで上昇している。奈良市では、日本人宿泊者数が微増または横ばいで推移している中、外国人宿泊者比率が 12 年以降上昇傾向で推移し、19 年には約 25%まで上昇している。
4. 国籍別外国人宿泊者のシェアをみれば、WEST NARA エリアでは、東アジアが一定程度占めているものの、足下は台湾を中心に低下傾向で推移している。一方、欧米豪が 2017 年以降上昇しており、うちフランスが 19 年に 3 割を占めている。吉野町では、東アジアが総じて高いが、15 年以降低下している。欧米豪は 14 年以降、2 割程度で推移しており、うちアメリカやフランスなどが一定程度を占めている。奈良市では、東アジアが圧倒的に高く、うち中国が 5 割強を占めている。一方、欧米豪は幾分上昇しているが、東アジアと比べれば低い。
5. 外国人宿泊者比率は、WEST NARA エリアや吉野町では着実に上昇しているが、奈良市のシェアは圧倒的である。京都府の分析事例と同様に、集中している地域からいかに他地域へ周遊させるかが今後の課題となる。すなわち、県南部への宿泊を伴うプログラムの造成が重要となろう。
6. このためにも、各 DMO が行う誘客プロモーション及びコンテンツ開発は重要である。例えば、地域の自然資源を活用した体験プログラムの造成などの、県南部へ外国人観光客のみならず日本人観光客をも周遊させる魅力的な仕組みづくりが一層重要となろう。その際、外国人と日本人とに分けるだけでなく、外国人に対しては国・地域ごとの嗜好に合わせて各地域がもつ強みを訴求することが重要となろう。

おわりに

京都府、和歌山県の事例を踏まえ、本稿の前半では基礎統計を用いて奈良県観光の課題を確認し、後半では DMO のマネジメントエリア別に誘客効果分析を行った。結果、戦略で示された課題である「宿泊を伴う周遊・滞在型観光」の一層の促進が重要であることが確認できた。A エリアと D エリアとの比較から明らかになったように、県内全域への周遊につなげるためにも、交通・道路体系の整備に加え、観光客の宿泊を促進するためのコンテンツ作りが必要である。その際、県の戦略にもあるように奈良県産の食材を使った食の提供などのブランド力の磨き上げも重要となろう。

これまでに筆者たちが行った京都府、和歌山県、奈良県の分析から得られた含意をまとめると、各府県とも各地域が保有する自然、歴史文化遺産を活かしたプロモーションを展開し、訪日外客を着実に増加させてきた。一方で、京都市や奈良市の例が示すように訪日外客が圧倒的に集中する地域とそうでない地域がある。またこれらの地域では比較的日帰り客が多く、宿泊客の拡大に対応できていない。すなわち、宿泊需要のポテンシャルを失っていることになる。こういった課題は、コロナ禍を経験することで見えてきた。今後のインバウンド戦略を考えれば、他地域へ分散・周遊を実現できるプログラム開発が重要となろう。インバウンド需要が回復にするつれて、各自治体はコロナ禍を受けた戦略に基づき、観光地域づくりのかじ取り役を担う DMO の役割がより一層重要となる。

今後は「広域・周遊」という分析視角[12]に注目し、上記以外の関西各府県における観光分析をおこなっていく。

[12] APIR では「広域・周遊」という分析視角に加え、「ブランド力」、「イノベーション」の分析視角を重要視している。分析視角の詳細な内容についてはアジア太平洋研究所(2020)及びアジア太平洋研究所(2021)を参照。

参考文献

アジア太平洋研究所(2020)，『アジア太平洋と関西―関西経済白書 2020』，第 5 章 3 節，日経印刷株式会社，2020 年 10 月。

アジア太平洋研究所(2021)，『アジア太平洋と関西―関西経済白書 2021』，第 5 章 1 節，日経印刷株式会社，2021 年 10 月。

アジア太平洋研究所(2022)，『2021 年度　APIR シンポジウム　コロナ禍で見えてきた、これからの観光地域づくり-変革を迫られる DMO-』，2022 年 3 月。

稲田義久・古山健大・野村亮輔(2022a)，「DMO のインバウンド誘客の取組とその効果 -マーケティング・マネジメントエリアに着目した分析：京都府の事例から-」，APIR Trend Watch No.76，2022 年 1 月 7 日，(https://www.apir.or.jp/research/10533/，最終閲覧日：2022 年 9 月 1 日)。

稲田義久・古山健大・野村亮輔(2022b)，「DMO のインバウンド誘客の取組とその効果(2) -マーケティング・マネジメントエリアに着目した分析：和歌山県の事例から-」，APIR Trend Watch No.79，2022 年 3 月 28 日，(https://www.apir.or.jp/research/10696/，最終閲覧日：2022 年 9 月 1 日)。

観光庁(2021)「登録観光地域づくり法人『登録 DMO』の形成・確立計画：斑鳩産業（株）」(https://www.mlit.go.jp/common/001322956.pdf，最終閲覧日：2022 年 9 月 1 日)。

観光庁(2021)「登録観光地域づくり法人『登録 DMO』の形成・確立計画：奈良県ビジターズビューロー」(https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001478960.pdf，最終閲覧日：2022 年 9 月 1 日)。

観光庁(2021)「登録観光地域づくり法人『登録 DMO』の形成・確立計画：(一社)吉野ビジターズビューロー」(https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001441432.pdf，最終閲覧日：2022 年 9 月 1 日)。

奈良県(2021)「奈良県観光総合戦略」(https://www.pref.nara.jp/item/250854.htm，最終閲覧日：2022 年 9 月 1 日)。

参考図表 1　宿泊及び日帰り旅行者数の推移：2010-21 年

単位：千人

年	宿泊旅行者数			日帰り旅行者数		
	京都府	奈良県	和歌山県	京都府	奈良県	和歌山県
2010	9,428	3,337	4,286	9,798	3,724	3,818
2011	11,403	2,345	4,774	11,214	3,467	2,750
2012	10,616	2,506	3,470	10,984	3,364	2,148
2013	10,365	2,919	4,336	10,824	4,445	3,501
2014	10,479	2,048	3,870	12,590	2,657	3,584
2015	10,126	2,061	3,668	12,817	3,507	3,248
2016	9,298	2,244	3,967	12,620	4,029	4,081
2017	10,299	2,405	3,939	12,175	3,312	4,286
2018	9,834	2,371	4,331	9,696	3,441	3,049
2019	8,373	2,468	3,637	10,269	3,153	2,509
2020	4,653	1,387	2,625	5,878	2,113	1,393
2021	4,134	680	2,098	3,681	1,296	2,227

観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成

参考図表 2　エリア別宿泊施設数：2011-20 年

■施設数　　単位：件

	Aエリア			Bエリア			Cエリア		
	旅館	ホテル	簡易宿所	旅館	ホテル	簡易宿所	旅館	簡易宿所	キャンプ場
2011	117	33	55	43	7	17	20	17	5
2012	107	34	57	40	7	17	19	17	5
2013	102	34	54	39	7	17	18	17	5
2014	90	34	50	33	7	23	13	15	5
2015	72	35	55	27	7	26	13	18	5
2016	65	36	57	23	7	27	12	15	4
2017	63	39	72	20	8	30	12	18	4
2018	68	40	91	20	9	31	11	18	5
2019	75	43	93	21	9	33	11	26	4
2020	75	51	92	19	10	34	10	28	5
	Dエリア			Eエリア			Fエリア		
	旅館	簡易宿所	キャンプ場	旅館	簡易宿所	キャンプ場	旅館	簡易宿所	キャンプ場
2011	54	49	18	37	44	2	16	16	3
2012	52	47	16	36	40	1	13	17	3
2013	49	47	14	31	37	1	12	17	3
2014	46	42	17	32	41	2	14	20	3
2015	46	45	18	32	29	2	13	20	3
2016	40	40	18	28	22	2	13	17	3
2017	38	40	17	28	23	2	13	17	3
2018	38	39	19	27	23	2	11	16	3
2019	38	41	19	26	24	2	11	16	3
2020	38	42	19	24	24	2	12	14	3

出所：奈良県『奈良県宿泊統計調査』より筆者作成。

参考図表 3　エリア別宿泊施設収容力：2011-20 年

■定員数　　単位：人

	Aエリア				Bエリア				Cエリア			
	旅館	ホテル	簡易宿所	総数	旅館	ホテル	簡易宿所	総数	旅館	簡易宿所	キャンプ場	総数
2011	6,448	5,028	2,848	14,324	1,614	915	271	2,800	749	735	640	2,124
2012	5,881	5,238	2,522	13,641	1,382	926	268	2,576	761	700	674	2,135
2013	5,716	5,082	2,483	13,281	1,548	924	260	2,732	694	700	864	2,258
2014	5,387	4,938	2,322	12,647	1,223	937	378	2,538	566	737	674	1,977
2015	4,458	5,420	2,044	11,922	1,084	830	450	2,364	619	753	674	2,046
2016	4,376	5,708	2,070	12,154	990	830	468	2,288	599	665	662	1,926
2017	4,131	7,001	1,942	13,074	932	855	493	2,280	599	687	615	1,901
2018	3,913	7,137	2,503	13,553	906	1,129	504	2,539	568	662	682	1,912
2019	3,919	7,289	2,836	14,044	918	1,129	528	2,575	531	712	570	1,813
2020	3,665	8,748	2,712	15,125	939	1,442	544	2,925	523	686	332	1,541
	Dエリア				Eエリア				Fエリア			
	旅館	簡易宿所	キャンプ場	総数	旅館	簡易宿所	キャンプ場	総数	旅館	簡易宿所	キャンプ場	総数
2011	3,349	1,276	2,885	7,510	1,584	813	384	2,781	779	394	561	1,734
2012	3,410	1,114	2,574	7,098	1,328	727	120	2,175	452	433	561	1,446
2013	3,242	1,069	2,544	6,855	1,208	718	120	2,046	431	443	561	1,435
2014	3,081	999	2,523	6,603	1,239	763	144	2,146	711	466	561	1,738
2015	3,038	1,011	2,886	6,935	1,136	650	120	1,906	643	466	561	1,670
2016	2,944	987	2,886	6,817	1,030	485	120	1,635	643	419	561	1,623
2017	2,823	1,046	2,598	6,467	1,072	490	120	1,682	643	419	441	1,503
2018	2,703	852	2,884	6,439	1,007	506	120	1,633	606	339	395	1,340
2019	2,772	869	2,884	6,525	992	541	120	1,653	606	342	395	1,343
2020	2,442	835	1,073	4,350	932	524	48	1,504	679	164	321	1,164

出所：奈良県『奈良県宿泊統計調査』より筆者作成。

参考図表４　エリア別宿泊施設定員稼働率：2011-20 年

単位：%

		A			D					A			D		
		旅館	ホテル	簡易宿所	旅館	簡易宿所	キャンプ場			旅館	ホテル	簡易宿所	旅館	簡易宿所	キャンプ場
2011	1月	13.8	30.0	1.7	2.4	1.0	0.1	2016	1月	18.3	47.4	5.6	5.7	5.5	0.3
	2月	13.5	40.4	2.3	2.2	0.5	0.1		2月	20.5	55.4	6.3	5.2	7.1	0.8
	3月	20.9	53.2	7.5	5.8	1.0	0.5		3月	30.9	67.8	15.2	7.5	6.7	2.0
	4月	26.0	55.4	5.9	16.2	6.1	2.0		4月	38.6	72.6	13.1	16.7	10.7	3.1
	5月	42.1	61.8	10.8	18.1	7.1	5.5		5月	46.8	66.7	18.0	12.4	8.3	7.8
	6月	37.3	50.3	10.8	12.6	3.1	3.2		6月	37.6	57.4	16.5	8.6	4.9	3.0
	7月	17.9	39.6	11.3	27.1	11.4	13.6		7月	28.1	55.8	19.2	20.0	13.1	20.1
	8月	29.6	63.3	16.3	28.9	20.4	35.9		8月	32.8	67.3	27.4	22.9	20.3	46.9
	9月	23.5	50.6	4.7	6.6	3.7	4.1		9月	34.5	58.7	12.2	16.6	11.5	13.8
	10月	38.0	58.5	7.0	7.4	5.5	1.1		10月	41.6	65.1	14.3	7.6	7.8	9.2
	11月	34.8	69.9	4.4	11.5	3.4	0.2		11月	34.9	64.8	10.4	11.4	7.6	2.6
	12月	20.3	47.7	2.6	5.1	1.4	0.0		12月	25.8	52.9	11.9	4.7	3.4	0.7
2012	1月	15.4	33.1	2.5	2.2	0.8	0.1	2017	1月	20.2	45.2	6.8	3.6	2.6	0.4
	2月	12.9	39.1	3.1	2.5	0.8	0.0		2月	19.9	50.8	7.2	4.6	7.2	0.1
	3月	22.8	63.6	7.6	5.4	1.4	0.2		3月	32.1	67.0	13.6	8.7	5.6	3.3
	4月	31.9	68.4	9.5	24.5	6.7	3.6		4月	36.5	67.5	14.6	17.7	12.9	2.3
	5月	43.9	61.9	14.6	14.6	8.1	7.4		5月	46.3	64.8	17.3	16.9	9.2	12.1
	6月	32.0	47.2	12.5	10.6	4.1	3.2		6月	38.2	52.4	14.3	10.9	4.6	5.3
	7月	18.3	44.9	14.8	20.5	9.9	22.2		7月	29.0	52.0	19.7	18.2	10.3	28.6
	8月	25.9	61.0	24.3	23.7	15.6	59.3		8月	33.7	58.7	21.5	24.9	17.4	57.2
	9月	26.9	50.6	9.4	6.9	6.9	17.3		9月	31.1	51.5	12.0	9.6	6.3	14.9
	10月	39.1	61.7	11.0	9.7	5.5	4.3		10月	40.8	61.0	18.2	12.1	6.5	6.3
	11月	36.2	73.9	7.3	9.5	5.8	1.3		11月	37.9	68.5	14.5	10.7	6.3	4.1
	12月	20.6	50.8	5.5	2.6	1.3	0.2		12月	27.5	52.0	11.3	4.6	3.1	0.3
2013	1月	14.4	35.8	2.8	1.8	1.2	0.1	2018	1月	21.6	39.5	7.5	3.8	4.9	0.1
	2月	13.2	43.3	5.1	2.2	2.1	0.1		2月	23.4	47.3	9.6	4.8	5.1	0.1
	3月	24.0	63.9	14.1	3.7	3.2	0.5		3月	33.3	59.3	15.4	8.2	7.9	1.4
	4月	33.2	69.0	11.0	16.8	4.2	3.4		4月	36.9	63.8	16.3	18.1	12.3	4.4
	5月	43.0	66.8	17.1	13.7	6.7	12.3		5月	52.3	59.0	22.7	15.3	7.9	9.9
	6月	36.2	52.2	14.5	8.5	3.6	6.6		6月	38.6	47.5	17.2	10.5	5.3	4.8
	7月	19.6	43.8	16.3	20.2	7.0	20.7		7月	25.8	48.0	15.3	18.9	10.0	14.6
	8月	29.0	64.5	28.7	25.3	15.1	56.5		8月	36.7	61.4	19.4	24.7	15.3	36.6
	9月	25.6	53.5	9.9	7.8	5.0	13.4		9月	33.5	51.5	11.3	9.6	7.6	10.0
	10月	38.9	64.2	10.6	8.0	5.6	3.2		10月	41.2	64.1	18.5	7.2	8.9	5.3
	11月	35.5	74.5	6.5	12.0	6.3	1.0		11月	35.7	66.9	17.2	10.9	8.6	3.4
	12月	21.6	54.1	5.8	4.6	2.6	0.0		12月	26.5	52.1	12.9	7.1	2.1	1.4
2014	1月	16.2	40.9	2.9	2.7	2.3	0.0	2019	1月	21.1	36.4	12.4	3.4	4.7	0.1
	2月	16.2	46.2	3.5	2.6	1.6	0.1		2月	22.1	39.9	11.1	4.9	7.8	0.1
	3月	28.4	65.9	12.4	6.2	3.4	0.3		3月	31.1	52.1	24.7	8.8	4.6	1.3
	4月	32.0	69.9	9.5	13.6	4.9	1.2		4月	39.4	62.8	20.0	20.7	17.0	9.4
	5月	44.1	65.5	16.1	11.9	6.2	8.0		5月	54.5	59.8	22.2	18.4	9.9	13.4
	6月	35.7	50.1	11.4	9.6	3.4	5.9		6月	42.6	53.7	18.0	13.1	4.0	5.1
	7月	22.6	50.3	18.4	16.5	7.5	16.4		7月	32.5	53.5	17.7	28.0	8.5	16.1
	8月	31.8	69.6	27.8	32.3	14.1	35.4		8月	38.2	63.9	28.3	25.3	14.1	37.0
	9月	29.9	60.8	11.2	8.4	6.7	13.1		9月	36.9	52.5	14.9	14.4	8.1	12.9
	10月	42.0	67.1	13.0	9.0	6.8	2.4		10月	40.5	56.2	15.7	7.3	8.1	4.8
	11月	40.3	76.4	11.4	12.8	10.4	0.8		11月	38.3	61.2	15.3	12.8	8.9	4.9
	12月	26.1	59.0	5.8	4.5	3.4	0.1		12月	27.8	47.3	11.4	5.1	4.0	0.9
2015	1月	15.3	42.2	3.5	3.5	2.5	0.0	2020	1月	17.8	39.2	5.3	4.4	2.3	0.2
	2月	18.7	52.1	5.6	3.5	4.3	0.2		2月	13.2	31.6	5.0	4.6	2.9	0.3
	3月	28.9	66.1	12.4	7.6	7.1	0.5		3月	11.0	21.8	4.7	3.8	3.1	3.6
	4月	37.3	70.9	8.1	17.7	4.5	0.7		4月	3.0	11.4	1.2	3.4	3.8	3.8
	5月	48.9	67.7	16.8	15.2	8.3	8.9		5月	3.8	13.7	1.1	2.2	1.0	5.2
	6月	35.7	54.0	14.1	7.7	4.0	2.2		6月	6.9	16.5	1.8	3.9	1.8	4.4
	7月	32.4	61.1	16.1	19.9	8.3	14.3		7月	8.8	24.3	3.3	8.7	6.8	11.7
	8月	48.7	73.0	24.5	37.6	15.0	38.8		8月	13.6	28.9	4.6	15.3	16.9	35.2
	9月	35.8	63.4	12.5	12.9	7.2	15.3		9月	23.2	33.9	7.9	13.1	9.0	15.4
	10月	44.2	68.0	13.3	11.1	11.4	5.8		10月	28.0	20.6	5.8	13.4	9.2	5.9
	11月	34.6	69.2	8.5	15.5	7.3	1.9		11月	34.0	24.6	8.7	13.7	9.0	4.2
	12月	24.7	55.8	7.2	3.9	2.5	0.5		12月	22.6	20.0	5.4	7.0	6.9	1.9

出所：奈良県『奈良県宿泊統計調査』より筆者作成。

参考図表 5　旅館における定員稼働率の記述統計：A 及び D エリア

Aエリア旅館		Dエリア旅館	
平均	31.13	平均	11.76
標準誤差	0.91	標準誤差	0.73
中央値 （メジアン）	32.05	中央値 （メジアン）	10.10
最頻値 （モード）	35.70	最頻値 （モード）	2.20
標準偏差	9.46	標準偏差	7.55
分散	89.40	分散	56.95
範囲	41.6	範囲	35.8
最小	12.9	最小	1.8
最大	54.5	最大	37.6
合計	3362.4	合計	1270.5
データの個数	108	データの個数	108

出所：奈良県『奈良県宿泊統計調査』より筆者作成。

参考図表 6　地域別延べ宿泊者数および外国人宿泊者比率の推移：2012-19 年

年	WEST NARAエリア				奈良市				吉野町			
	(延数：人泊)			%	(延数：人泊)			%	(延数：人泊)			%
	全宿泊者	外国人	日本人	外国人宿泊者比率	全宿泊者	外国人	日本人	外国人宿泊者比率	全宿泊者	外国人	日本人	外国人宿泊者比率
2012	58,883	909	57,974	1.5	857,526	30,462	827,064	3.6	20,908	150	20,758	0.7
2013	75,788	1,370	74,418	1.8	939,498	42,812	896,686	4.6	19,348	276	19,072	1.4
2014	77,924	1,185	76,739	1.5	930,804	71,826	858,978	7.7	14,922	315	14,607	2.1
2015	68,307	3,274	65,033	4.8	1,097,992	163,616	934,376	14.9	27,359	1,632	25,727	6.0
2016	88,252	3,616	84,636	4.1	1,186,162	208,805	977,357	17.6	24,599	1,146	23,453	4.7
2017	89,086	3,589	85,497	4.0	1,090,160	187,806	902,354	17.2	34,431	1,456	32,975	4.2
2018	83,574	3,968	79,606	4.7	1,215,369	262,366	953,003	21.6	28,250	834	27,416	3.0
2019	52,298	2,315	49,983	4.4	1,272,457	314,769	957,688	24.7	15,130	1,324	13,806	8.8

出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

＜APIR 研究統括/数量経済分析センター長　稲田 義久、研究員　野村 亮輔、contact@apir.or.jp, 06-6485-7690＞

・本レポートは、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
・本レポートは信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
また、記載された内容は、今後予告なしに変更されることがあります。